

# 春 告 草

第 132 号 平成 31 年 2 月 13 日 進路指導部発行

## センター試験を振り返る（第 2 回）

今年も 2 月半ば、1 月末から始まった首都圏私立大の入試も今週がピークである。後期試験、3 月試験などを残す一部の私立大もあるが来週には、ほぼ終了する。下旬 25 日からは国公立大の前期日程試験が始まるが、後期日程試験はまだ 1 か月先である。中学入試や皆さんは経験していないが高校入試に比べると、随分と長丁場だ。現役生は入学試験そのものが、受験勉強における最良の教材ともなる。受験しながら現役生は力を伸ばしていける。インフルエンザ流行の時期ではあるが、くれぐれも体調管理には十分に気をつけて、ラストスパートを成功させよう。

さて、今回もセンター試験の振り返り記事を書こうと思う。平均点のアップ・ダウンはもちろんだが、どの科目を受験したのかなどについての情報も提供する。4 年生、5 年生は参考にしてもらいたい。

### 平均点ダウンの科目が多かったセンター

「平成 31 年度大学入試センター試験実施結果の概要」が大学入試センターより発表された。実受験者数は 54.6 万人で志願者数に対する受験率は 94.69% だった。高校卒業見込者が前年より約 8.6 千人減少する中、現役志願率は 44.0% と昨年に次ぐ高水準である。近年、私大センター入試に加え、センター試験を課す推薦入試、AO 入試を実施する国公立大も増加していて、センター試験を受験する層は拡大している。

私立大学の厳しい合格者絞り込みは浪人生の増加につながり、センター試験志願者は昨年比で約 2.7 千人増加したが、現役生主導の大学入試であることに変わりはない。

平均点は右の図表に示したとおりで、地歴 A 科目などを除く主要 20 科目中、14 科目が前年を下回った。大きな話題は国語平均点のアップである。国語は一昨年の国語ショックに続き、昨年もダウンと 2 年続けて厳しい状況が続いていたが、今年は前年比 16.87 点の大幅アップである。平均点が下がった科目が多かった中、国公立大受験型（文系 5 教科 8 科目集計、理系 5 教科 7 科目集計）の総合平均点はアップした。

5-8 文系で 570 点（対前年 +16 点）、5-7 理系で 576 点（対前年 +12 点）（データ数約 45 万人 ベネッセ駿台集計）となっているが、これは国語のアップによるところが大きい。

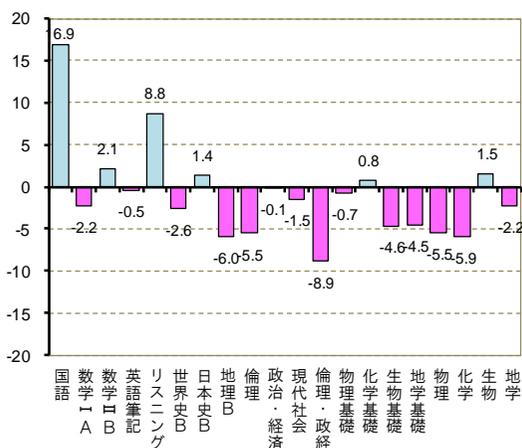
地歴、公民科目は昨年、平均点アップが目立ち、世界史 B、地理 B、倫理、倫理・政経は 70 点前後の高水準だったが、今年は一転、日本史 B を除く 6 科目がダウンした。中でも倫理、政経の 8.86 点のダウン幅は最も大きい。

表 1 平成 31 年度センター試験平均点

教科グループ	科目	配点	平均点	
			31年度	30年度
国 語	国語	200	121.55	104.68
	世界史B	100	65.36	67.97
地理歴史	日本史B	100	63.54	62.19
	地理B	100	62.03	67.99
公 民	現代社会	100	56.76	58.22
	倫理	100	62.25	67.78
	政治・経済	100	56.24	56.39
	倫理、政経	100	64.22	73.08
数 学 ①	数学 I 数学 A	100	59.68	61.91
数 学 ②	数学 II 数学 B	100	53.21	51.07
理 科 ①	物理基礎	50	30.58	31.32
	化学基礎	50	31.22	30.42
	生物基礎	50	30.99	35.62
	地学基礎	50	29.62	34.13
理 科 ②	物理	100	56.94	62.42
	化学	100	54.67	60.57
	生物	100	62.89	61.36
	地学	100	46.34	48.58
外 国 語	英語	200	123.30	123.75
	リスニング	50	31.42	22.67

平成 31 年 2 月 7 日 大学入試センター発表

図 1. センター試験平均点前年差



理科は理科①(基礎科目)の平均点差は縮まったが、理科②(発展科目)は逆に拡大した。地学は50点を切る低い水準だが、受験者数は2千人以下であるため、「得点調整」は地歴、公民も含めてなかった。

数学は数学ⅡBが53.2点で昨年比2.1点のアップとなった。第3問数列はやや難しかったが、全体を通して計算量も無理なく設計されていた。今後もこのレベルが維持されるならば、勉強量に応じた得点が期待できると思われる。

昨年、大幅に平均点を下げた英語リスニングは、8.75点(50点満点)のアップ。新テスト実施へ向けて難化への傾向を心配したが、来年も今年のレベル並みだろう。ただし、再来年の新テストでは筆記、リスニングの配点が各100点となり、リスニングのウエイトが高まる見込みである。準備はしっかり行っておきたい。英語筆記試験も例年並みの水準だった。

全体的にみれば、手堅く得点した受験生も多く、前年同様「大きな失敗のなかったセンター試験」と評価できるだろう。

## 新テストを視野に入れた出題も

2021年度入試から新テスト「大学入学共通テスト」が実施される。受験するのは、現4年生であり、新テストに関わらないよう5年生には最善を尽くしてもらいたいが、新テストを意識した出題も見られ、これに対する準備も必要である。前号にも書いたが、問題文が長く読解力を要す問題や対話形式での出題、また文章や図表など複数の素材から考えさせる問題は今後も増加すると思われる。

英語筆記 第4問A データの読み取り 問2は表内の各項目の大小関係を正しく把握する必要があった。表やグラフなどのデータを含む英文の読解は、今後も出題が予想される。また、第3問Bは「退職する恩師への贈り物」に関する生徒たちの話し合いから発言の内容を要約したり、複数ある意見の合致点を明らかにする問題だった。本問にみられるように、より実践的なコミュニケーション能力を問う傾向が強くなっている。

国語の第1問(評論)は、対話形式の設問で昨年に続く出題だが、対話中の空欄補充であった昨年と異なり、生徒の発言を選択肢とし、本文の趣旨との異同を問う内容だった。

日本史B 第1問は昨年に引き続き会話形式の問題が出題された。大学歴史サークルの先輩後輩の会話文から、各地の地名の由来やアイヌと蝦夷地の歴史や人権問題が扱われた。写真や図はなかったが、資料読解が重視されている。

## どの科目を選択しているのか

図2にセンター試験の受験科目数別の受験者数の構成比率を示した。

7科目受験者(理科基礎は2科目で1科目としてカウント)は29.5万人と、全パターンで最も多く、センター試験受験者の54.0%を占める。文系・理系ともに、国公立大が課す最も標準的な科目数だ。

次に多いのは、私立大志望者に多い3科目受験者で、全体の22.6%、12.4万人を占める。

国公立大志望者と私立大専願者で、受験科目数をはっきり分かれていることが確認できるだろう。

大学入試センターより発表された「実施結果の概要」では、科目別の受験状況についての集計も掲載されている。

地歴、公民および理科の科目選択についてみていこう。

表2は地歴の集計であるが、日本史Bが最多で地歴選択者の4割を占める。地理Bがこれに続き、世界史Bの選択者は2割強程度である。公民の集計は表3であるが、公民受験生の4割弱は現代社会で受験している。

5年生は既に来年度の科目選択を決め、登録も済ませた時期ではあるが、念の為に確認しておこう。勿論4年生は、1年後には決めなければいけないので、この際学習しておこう。

国公立大志望でセンター試験受験を想定し地歴・公民の

受験科目を考える際は、**4単位科目**(世界史B、日本史B、地理B、『倫理、政治・経済』)と**2単位科目**(世界史A、日本史A、地理A、現代社会、倫理、政治・経済)の2つに大きく分けてみる必要がある。

図2. センター試験受験科目数別受験者数の構成比率

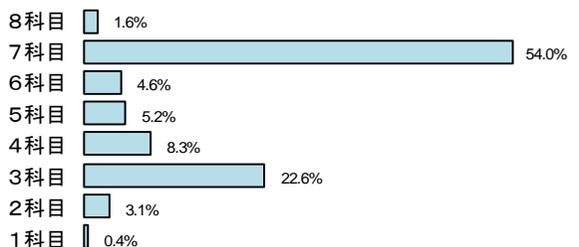


表2. 地理歴史の受験人数

世界史B	日本史B	地理B
93,332 [22.5%]	169,765 [40.9%]	146,343 [35.2%]

表3. 公民の受験人数

現代社会	倫理	政治・経済	倫理、政治・経済
75,895 [37.7%]	21,608 [10.7%]	53,035 [26.3%]	50,930 [25.3%]

平成31年2月7日大学入試センター発表

国公立大文系を志望する場合、多くの大学・学部は地歴、公民を2科目受験しなければいけない。基本パターンは「日本史B」と「現代社会」で受験するなど、4単位科目と2単位科目の組み合わせである。しかし、東京大、京都大、一橋大など難関大は4単位科目から2科目を選択させるケースが多い。さらに世界史A、日本史A、地理Aが選択できないケースや他教科と合わせて2～3科目を選択させるなど、科目指定にはいろいろなパターンがある。

国公立大理工系志望の場合は、一般的に2単位科目を含む10科目から1科目を課すところが多いが、難関大は4単位科目指定のケースもあるので、受験科目を決める場合は注意が必要だ。

表4は地歴、公民2科目受験者の科目選択内訳であるが、日本史Bを軸とした選択が多くなっている。例年、この構成比に大きな変化はないので参考にするのもよいだろう。

ただし、志望大学の科目指定を調べて、間違いのないように科目選択を決めることが何よりも大切である。

表4. 地歴、公民2科目受験者の科目選択人数内訳

教科	地 理 歴 史						公 民			
	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治経済	経済
世界史A			59 [0.0%]	59 [0.0%]	37 [0.0%]	52 [0.0%]	224 [0.2%]	44 [0.0%]	117 [0.1%]	18 [0.0%]
	世界史B		41 [0.0%]	7,341 [4.9%]	38 [0.0%]	7,561 [5.1%]	11,803 [7.9%]	5,074 [3.4%]	6,867 [4.6%]	12,485 [8.4%]
		日本史A			26 [0.0%]	17 [0.0%]	417 [0.3%]	90 [0.1%]	267 [0.2%]	27 [0.0%]
		日本史B			36 [0.0%]	3,338 [2.2%]	27,459 [18.5%]	7,827 [5.3%]	17,759 [12.0%]	17,540 [11.8%]
				地理A			390 [0.3%]	61 [0.0%]	120 [0.1%]	16 [0.0%]
					地理B		10,250 [6.9%]	1,271 [0.9%]	3,422 [2.3%]	3,831 [2.6%]
						現代社会		217 [0.1%]	1,872 [1.3%]	256 [0.2%]
								倫理	169 [0.1%]	
									政治経済	

平成31年度センター試験における  
地歴歴史・公民2科目受験者の科目選択状況  
(大学入試センター発表)

■組合せは多い順に  
1. 日本史B+現代社会 [18.5%]  
2. 日本史B+政治経済 [12.0%]  
3. 日本史B+倫理、政経 [11.8%]  
4. 世界史B+倫理、政経 [8.4%]  
5. 世界史B+現代社会 [7.9%]  
[ ]内は2科目受験者に対する受験者の構成割合

次は理科の科目選択についてみていきたい。

現行課程になって国公立大文系生徒は理科が基礎2科目受験(※1)となったので、理科①を受験する。旧課程では1科目だったので、2科目受験を負担に思う人もいるかもしれないが、理科①は点を稼ぐことのできる科目だ。理科基礎科目の全国平均点は表1に示したとおりだが、本校生徒の平均点は第131号で示したように40点前後である。100点満点に換算すれば物理基礎は76点、化学基礎、生物基礎は共に82点と好成績をおさめている。理科基礎2科目は負担にはならない。文系志望の生徒は決して弱気にならずに国公立大を志望しよう。その為にも早いスタートが必要であることは言うまでもない。(※1. 大学によっては基礎2科目に替えて「発展1科目」選択も可能)

一方、理系は「発展2科目受験」が標準で、理科②を受験する。科目は志望学科に応じて指定されているケースが多く、募集要項などで最新情報を収集しよう。ただし、理系の中でも教育系や看護・医療系の場合は「基礎2科目+発展1科目」など、基礎科目での受験が可能な大学もある。よく調べて受験科目を決定しよう。

受験者の選択内訳を表5、6に示したが、理科①は化学基礎、生物基礎の組み合わせが「基礎2科目」受験生の過半数を占める。

理科②は物理、化学選択が最多となっているが、専攻する分野、領域に関係する科目を指定しているケースも多く、受験科目調べが必須である。

各科目の得点分布について、大学入試センターは明らかにしていない。前号掲載のデータリサーチ結果を参考にしてもらいたい。

(いずれもデータは大学入試センター発表資料)

表5. 理科基礎2科目受験者の科目選択内訳

物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎
物理基礎	10,419 [7.2%]	2,348 [1.6%]	1,339 [0.9%]
	化学基礎	83,542 [57.9%]	3,632 [2.5%]
		生物基礎	43,115 [29.9%]

[ ]内は科目選択方法Aの実受験者(144,395人)の構成率

表6. 理科発展2科目受験者の科目選択内訳

物理	化学	生物	地学
物理	138,438 [73.4%]	879 [0.5%]	498 [0.3%]
	化学	48,099 [25.5%]	221 [0.1%]
		生物	440 [0.2%]

[ ]内は科目選択方法Dの実受験者(188,575人)の構成率

## 大学入試ガイド(5)

# 2段階選抜って何？ センター試験の得点如何では、受験前に不合格通知も

東大をはじめ、2段階選抜を実施する国公立大学がある。

志願者倍率が規定の倍率を超えたときに実施され、足切りされてしまった場合は、受験前に不合格通知が届く。国公立大学の2段階選抜をチェックしよう。

国公立大学の一般入試で気をつけなければならないのが2段階選抜である。これはセンター試験の成績を用いて2次試験の受験者を事前に選抜(第1段階選抜)したうえで個別試験を実施するという制度。選抜が2段階に分かれていることから2段階選抜とよばれている。

2段階選抜実施の有無は大学により、またその実施方法も各大学に委ねられている。多くの大学では、志願者が募集人員の既定の倍率を上回った場合に実施され、志願状況によって第1段階選抜(足切り)の有無が決まる。そのため、実際に2段階選抜が実施されるのは、志願者が集まる難関大学や医学科のような人気学科が多くなっている。また、東京工業大学のように志願者数に関係なく、センター試験の点数を出願資格や第1段階選抜の基準ラインに定めている大学もある。

2段階選抜の実施を予定している大学では、センター試験の成績次第で個別試験を受けることなく不合格となってしまう場合もあるわけだ。

東京大学では科別別に2段階選抜の倍率を定めている(2.5倍~4.5倍)。表7が今年の志願状況だが、いずれも足切りの倍率を超えている。

一橋大学前期日程試験の2段階選抜実施倍率は約3倍。表8が今年の志願状況だが、各学部ともこの倍率を超えた。後期試験は経済学部だけの実施だが、2段階選抜の倍率は約6倍である。

東京工業大学は今年より学院別募集になったが、これまで通り前期日程試験では、センター試験の得点が基準点(600点)以上であることが、出願要件の一つとなっている。志願倍率は2.5倍(生命理工)から9.8倍(情報理工)と分散した。後期試験は生命理工(14.2倍)だけの実施で、2段階選抜実施倍率は約10倍である。

首都大学東京は足切り者を多く出す大学のひとつだが、前期試験の2段階選抜実施倍率は6倍(保健福祉学部のみ5倍)、後期試験は14倍である。表10で志願者倍率欄を反転表示したところが規定の倍率を超えた学科である。

いずれの大学とも、第1段階選抜合格者の発表は2月13日、つまり今日である。

国公立大学志望者は、まずセンター試験でしっかりと得点できる力をつけることが大事といえるだろう。

表7. 東京大学志願状況(2月6日現在)

科 類	募集人員	志願者数	志願倍率
文科一類	401	1393	3.5
文科二類	353	1180	3.3
文科三類	469	1488	3.2
理科一類	1108	2902	2.6
理科二類	532	2068	3.9
理科三類	97	387	4.0

表8. 一橋大学前期試験志願状況(2月6日現在)

	募集人員	志願者数	志願倍率
商 学 部	255	832	3.3
経済学部	195	694	3.6
法 学 部	155	476	3.1
社会学部	220	685	3.1

表9. 東京工業大学前期試験志願状況(確定)

学院	募集人員	志願者数	志願倍率
理	143	673	4.7
工	314	1520	4.8
生命理工	105	261	2.5
物質理工	160	484	3.0
環境・社会理工	92	441	4.8
情報理工	86	843	9.8

表10. 首都大学東京志願状況(確定)

学部・学科等名		一般前期			一般後期		
		募集定員	出願者数	志願倍率	募集定員	出願者数	志願倍率
人文社会	人文社会	80	336	4.2	15	235	15.7
	人文	61	273	4.5	12	104	8.7
法	法	176	1690	9.6			
経済経営	経済経営(一般)	110	443	4.0			
	経済経営(数理)	20	84	4.2			
	経済経営(後期)				20	119	6.0
理	数理科学	25	164	6.6	10	168	16.8
	物理	24	127	5.3	12	107	8.9
	化学	28	147	5.3	10	97	9.7
	生命科学	20	156	7.8	10	111	11.1
都市環境	地理環境	17	104	6.1	5	55	11.0
	都市基盤環境	31	89	2.9	6	98	16.3
	建築	30	314	10.5	8	175	21.9
	環境応用化学	30	116	3.9	8	121	15.1
	観光科学	18	82	4.6	7	111	15.9
	都市政策科学(文系)	20	63	3.2			
	都市政策科学(理系)	10	37	3.7			
都市政策科学(後期)				5	61	12.2	
システムデザイン	情報科学	30	257	8.6	10	160	16.0
	電子情報システム工	51	399	7.8	17	192	11.3
	機械システム工	54	269	5.0	18	297	16.5
	航空宇宙システム工	28	147	5.3	10	159	15.9
	インダストリアルアート	32	179	5.6	8	138	17.3
健康福祉	看護	40	118	3.0	5	141	28.2
	理学療法	20	74	3.7	5	61	12.2
	作業療法	15	32	2.1	5	65	13.0
	放射線	22	61	2.8	8	57	7.1